

枚方公済病院の血液内科の歩み



枚方公済病院
2階西病棟
松下 友子

2005年 血液内科の診察開始

2008年 ～自家末梢血幹細胞移植を開始

2008年～2011年 自家末梢血幹細胞移植 合計9例

2010年 4月新棟開設

(無菌室完備)個室4室と4人部屋 2室

クラス1000 無菌室1床・・・移植適応室

クラス10000無菌室11床

2010年～ 同種幹細胞移植を開始

2010年～2011年 同種幹細胞移植 合計 6例

悪性リンパ腫 HLA一致移植・・・1例

悪性リンパ腫 ハプロミニ移植・・・1例

急性骨髄性白血病 ハプロミニ移植・・・4例

**個室無菌室です。
個室はヘパフィルターとクリンベッドが入っています**



- ◆ 各個室には滅菌水の洗面所が完備されています
- ◆ 状態に応じて、インターフォンでの対応も行っています

個室4床のうち、1床がクラス1000無菌室で移植対応をしています。

個室の前室には、流し台とトイレとシャワー室が完備されています。



4人部屋の内ドアはガラス越しになっています。
(へパフィルター完備でクラス10000の無菌室)



4人部屋の前室
滅菌水の洗面所とトイレ




造血幹細胞移植を受けた患者 の不安に対する看護

枚方公済病院

2階西病棟

松下 友子

はじめに

- ◆ 抗癌剤投与による悪心・嘔吐は70-80%の患者に出現し、最も苦痛を感じる副作用である
- ◆ 化学療法で、嘔気・嘔吐の経験がある者は予期性嘔吐が出現する可能性が高い。  A氏は
- ◆ 8クール of 化学療法で嘔気・嘔吐を繰り返している。
- ◆ 移植に伴う治療の副作用で悪心・嘔吐が出現し、身体的苦痛を伴うことが予想される。
- ◆ 閉鎖的なクリーンルームでの生活は、精神的苦痛が予測される。

 闘病意欲にも悪影響が及ぶと考える。

- ◆ その時期の治療内容・症状にあった関わりをし、患者が闘病意欲を持って不安なく治療を受けられる看護の提供

患者紹介

50歳台女性

夫子供の5人家族

息子がドナーとなる。

移植までの経過

2010年1/16右鼠径部の腫脹で近医を受診

1/18にヘルニア疑いで、当院外科紹介受診。

病理組織の結果、悪性リンパ腫(濾胞性)と診断。

2010年2/12 PETの結果、IV期悪性リンパ腫と診断。

2010年3月～10月まで8クール of 化学療法:

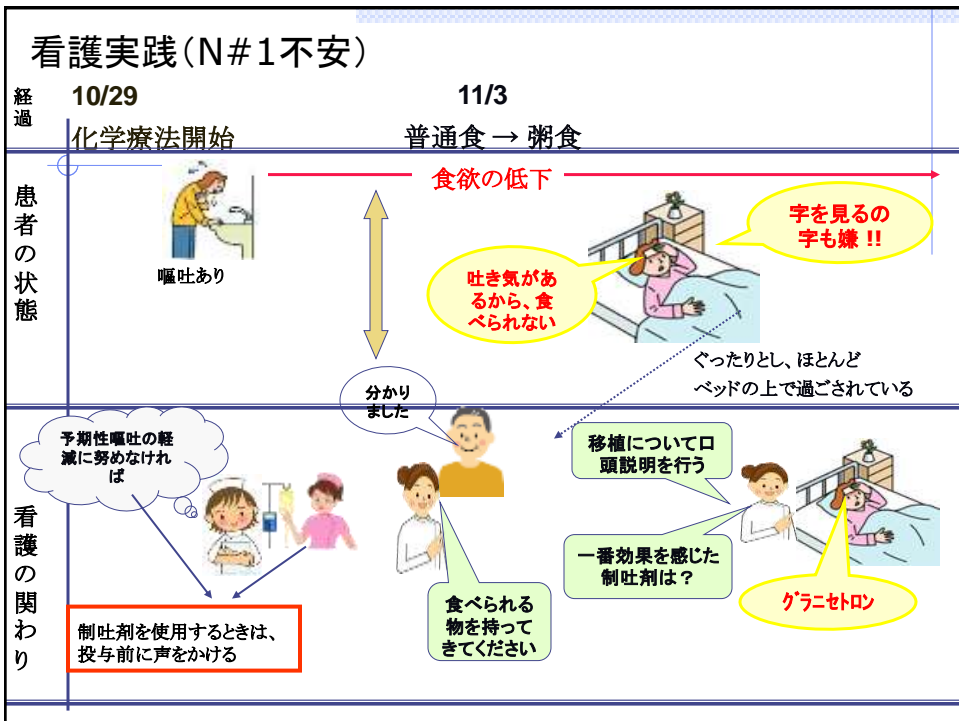
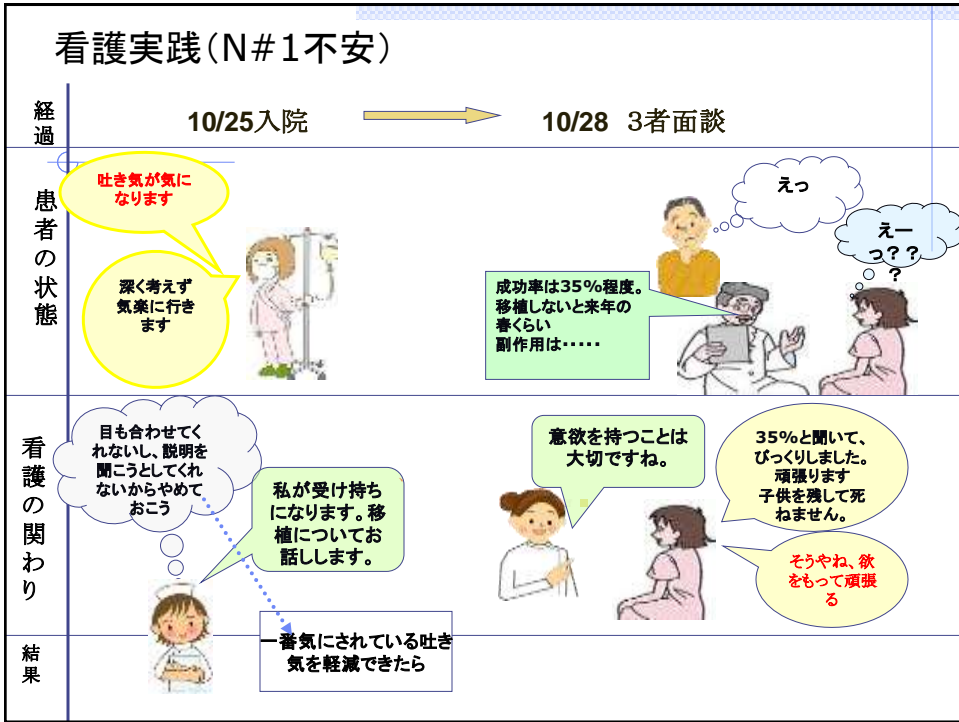
1)R-CHOP3クール、2)Cladribine+Mit 1

3)EASAP1, 4)R-DeVIC3

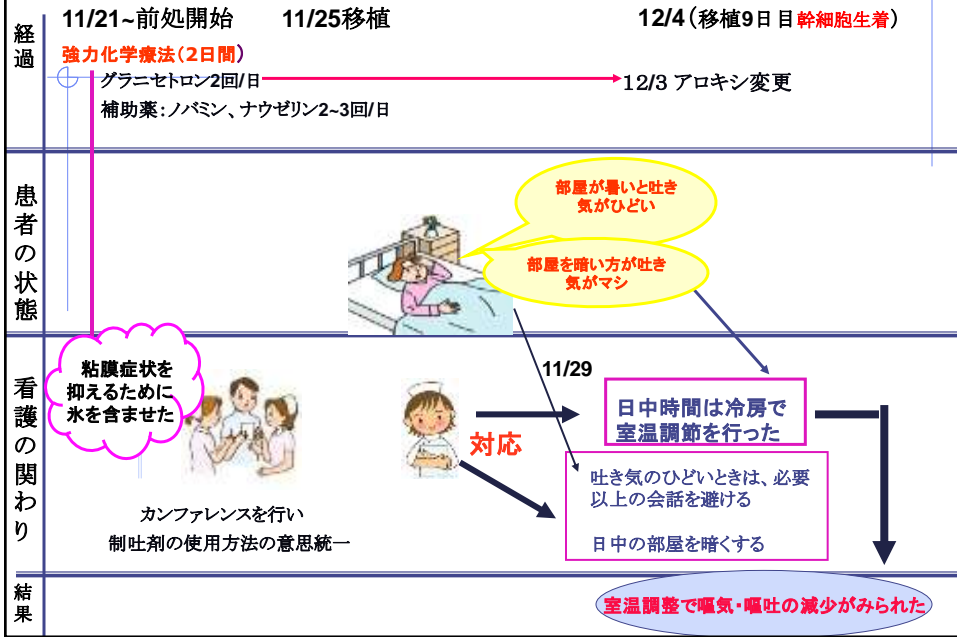
顎下病巣が残存。化学療法不応と判断。

息子をドナーとしたハプロ造血幹細胞移植を決定。

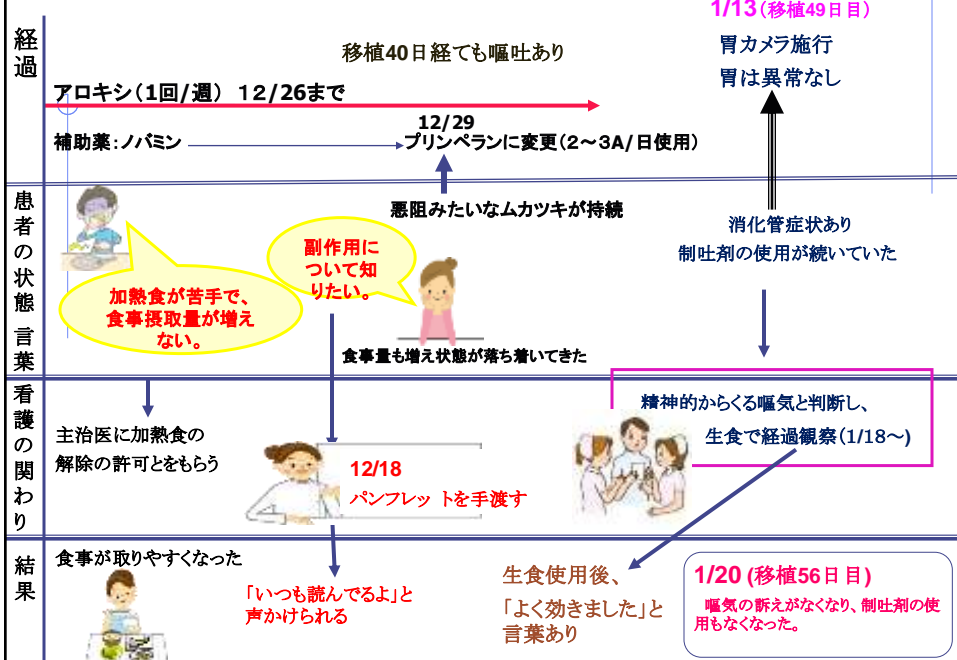
2010年10/25 移植目的で入院。



看護実践(N#1不安) 悪心・嘔吐からの生理的苦痛を最小限にする



看護実践(N#1不安) 悪心・嘔吐からの生理的苦痛を最小限にする



看護実践(N#1不安)クリーンルームのストレスからの精神的苦痛を最小限にする

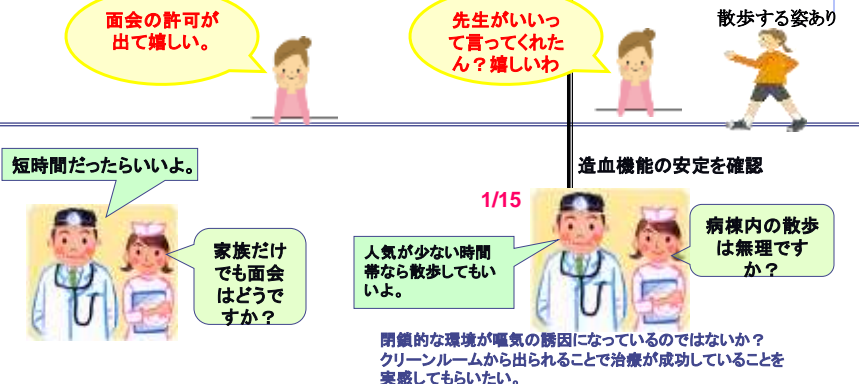
経過

12/4 (移植9日目)
(幹細胞生着)

12/10 (移植15日目)
面会の許可あり

1/15 (移植51日目:造血機能安定)
棟内散歩の許可あり

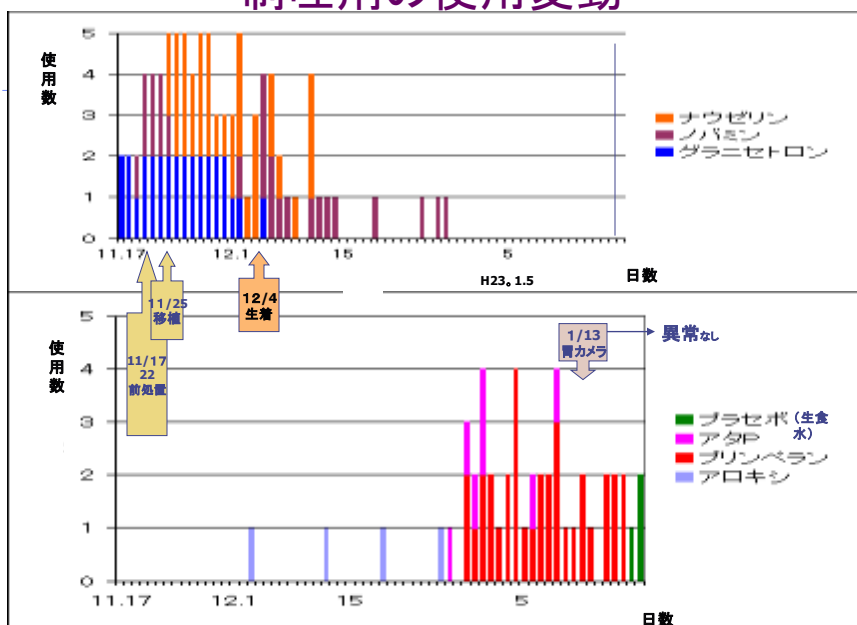
患者の状態・言葉
看護の関わり



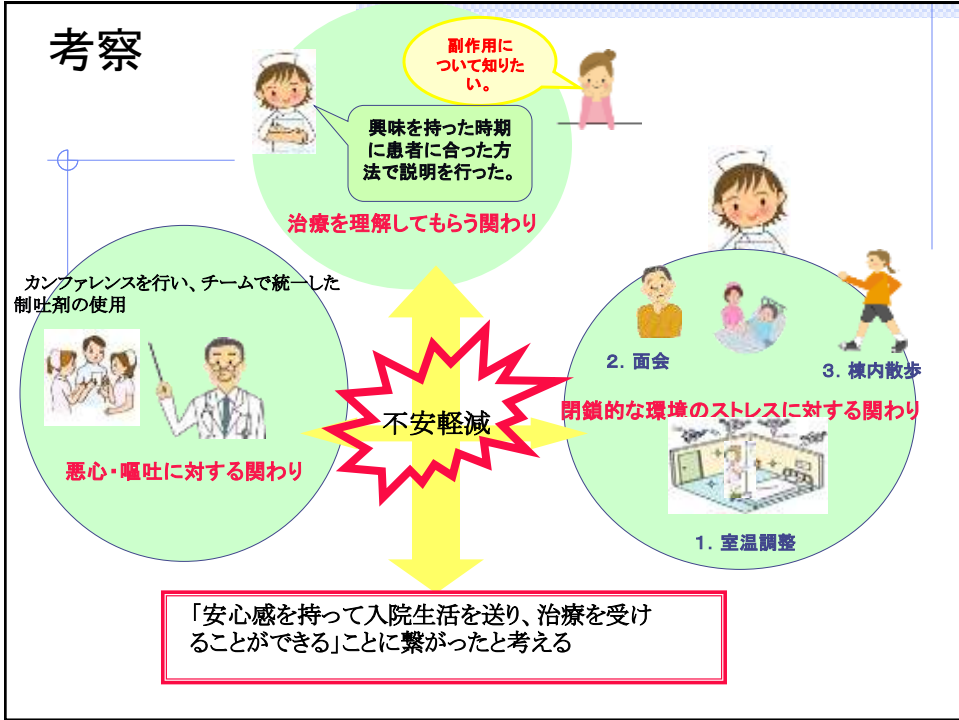
結果

散歩が出来るようになり、入院生活に楽しみができることにより制吐剤の使用量が減り食事も増え、1/20頃より制吐剤の使用がなくなった。

制吐剤の使用変動



考察



ご静聴ありがとうございました。

